

1 評価実施日時 平成 29 年 3 月 6 日 (月) 11:20 於会議室

2 学校関係者評価委員 (6 名)

高齢者福祉施設関係者、連携学校関係者、PTA 関係者、社会福祉協議会関係者

3 関係者評価参加教員 (12 名)

校長、教頭、事務長、総務部長、教務企画部長、生徒指導部長、進路指導部長、保健部長、情報教育部長、三学年主任、二学年主任、一学年主任

4 学校関係者から聴取した主な意見とその対応策

- ・防災に加え簡単な訓練でよいので、防犯も加えてはどうか。
→今後考慮したい。
- ・スケアードストレイト交通安全教室とはどういったものか？
→スタントマンが生徒の目の前で事故の再現を行い、事故の恐怖を体験させ、交通安全につなげるものである。
- ・学校評価の見方について、良くなり始めている学校にありがちだが、評価する目も厳しくなる。もっとできるはずだと考えがちである。基準が変わるため、一時的に評価が下がることになる。やっていることを正当に評価することが必要。取り組みが定着すると評価が下がったような結果が出るが、自信をなくすことにならないように。
- ・縦割り、分掌単位で評価すると横の連携がおろそかになりがち。学年評価が横系になっているのがよい。次の段階として横のつながりが大切。
- ・3 年生が 318 名で卒業されたことはすばらしいことだと思います。2 年生は、進路変更者が多いが、その理由などを教えていただきたい。
→進路変更者の理由は、大まかに分けて、学校・学業不適合、人間関係の問題によるものになる。もちろん複合的なものがほとんどである。2 年生は学区制度が大きく変わる 1 年目で広範囲の中学校から、それぞれ少人数で入学してきた生徒がいる。旧学区からの生徒が多い中で、新しくチャレンジしてきたものの、うまく友人関係を築けなかった生徒もいた。それぞれの状況に応じ、全力で指導にあたってきたが、我々の力不足も痛感している。1 年生の 1 学期での指導が大切である。面談週間をもうけて、一人一人の生徒に対応していきたい。
- ・生徒による授業評価はどう処理しているのか。
→各授業担当が授業改善に生かしている。
- ・学校評価について、パーセンテージでは見ない方がいい。+-5~10% はあまり関係ない。評価の観点も変わるので。
- ・卒業式では、校長先生の話がよかった。きちんと子どもたちに伝わっていると感じた。生き方をいろいろ示していくことが大切だと思う。進学や学力については親としては大事なこと。また、気持ちよく学校に行って、3 年間過ごしてくれたらと思う。以前以上に西校にはそういう状況がある。
- ・努力している子が報われるような指導、勉強の仕方とかをわかりやすく指導していただきたい。今の社会は生きにくい、窮屈なところがある。1 年生は横のつながりができる 4 月~5 月頃までは先生の関わりが必要だと思う。社会への反発をしている子は、やがて道を見つけていくが、しんどい子は、家庭が機能していない。居場所がない子が増えている。いろいろな形で、大人の関わりが必要ではないか。
- ・縦の評価と横の評価を総合的に捉えることが大切。例えば、遅刻欠席の意味をどうとるか。少なれば少ないほど規律が高まるという考えもあれば、3 年では家庭学習を選んでいるという受験指導に対しての意見表明とも考えられる。異なる立場で数字の解釈を考えていく。縦の指導が限界に近づくと次のステップとして横への考えが必要となる。進路指導でも、合格者数の意味を考える。希望進路を実現した結果なのか質を考える時期に来ているのではないか。